

## 「フリーテーマ」

早苗町

Q：市長ホットラインは残念だった。冒頭で北京五輪の感動ことに触れていたが常葉菊川高校の甲子園準優勝のことには一言も触れていなかった。確かにレギュラー部員に浜中・御中生はいなかったが、県を代表しているのだから話に入れてほしかった。

野球をサポートするには欠かせない応援がある。浜中からも大勢入って夜遅くまで練習している。チアダンス部にも3人浜中から入部している。家族のサポートもたいへんだった。試合に出発するバスは菊川を深夜でしかも平日。朝早い出勤を控えて深夜に子どもを送迎した。

市内にはOBや在校生、指導者など菊川高校の関係者が大勢いる。その家族や親戚などは全国準優勝を心から祝福した。甲子園に限らず、物事を見るときに掘り下げてみてほしい。陰の力をみてほしい。

浜中生徒の全国大会・東海大会への出場が大きな垂れ幕で紹介してあった。個人名の垂れ幕は市役所へ掲示すべきではない。「浜岡中学校陸上部」とだけ表示すればいい。個人名は学校へ掲示すればいいこと。全国大会や東海大会へ出れなくても頑張っている生徒がたくさんいるのに配慮に欠けていると思ったし残念だった。

A：配慮が足りないといわれるかもしれないが、ホットラインの限られた3分程度の時間の中では菊川高校の甲子園準優勝には触れなかった。ただ、明るい話題であるし、すばらしい成績だった。確かに浜中や御中の生徒は掛川西高や東高、小笠高、榛原高、相良高など周辺自治体にある高校へ大勢通っている。みなさんご苦労されていること、大変なことがあるだろう。しかし、市内にある浜中の活躍は紹介したいし、知ってほしい。明るい話題だし市民を元気付け、生徒にも励みになる。ホットラインの内容は吟味していく。

大山

Q：風光明媚な富士山静岡空港の開港が近づき、御前崎港とあわせて最も飛躍が期待される御前崎市の今後の取り組み計画について知りたい。

A：世界から訪れる人々へ多言語パンフレット（英語・韓国語）を作成した後、中国語なども予定している。観光標識や案内板も多言語標識として順次設置していきたい。東遠地区広域市町村圏協議会（掛川・菊川・御前崎）と牧之原で市長と行く韓国ソウルツアーを計画している。同時に、ソウルからのツアー商品の紹介も韓国の旅行代理店を通じて協力を要請している。ウルチン郡、ヤンピョン郡との友好都市交流も今後、具体的な協議に入りたい。観光や農業、水産業、教育など各分野での協力・協調・情報交換などで交流を図っていきたい。

大山

Q：ある人が体育館で行われたある大会の開会式で、子どもたちに来賓の皆さまが激励のことばをかけてくださる後ろで何人かの母親たちの私語が絶えなかった。この光景を中学生はどういう目で見えていたか。このような親に育てられた子どもたちはどんな大人になるのかと嘆いていた。給食費問題で苦労した経緯もあり、学校教育ももちろん大切だが、親たちの教育、家庭教育も大切だ。家庭教育の取り組みはどうなっているか。

A：家庭教育は主に社会教育課と学校教育課で展開している。給食費未納問題やごみの分別、参観会や講演会での私語など確かに大人社会のモラルやマナーの低下はさまざまな問題に波及している。このような大人のつくりだす社会環境の中で、青少年の健全な育成は難しい。基本的には家庭教育を官から民へ指導することは好ましいことではないが、市では家庭教育力の支援を目的に次のような取り組みを行っている。

社会教育課で、家庭の教育力向上を目的に懇話会や教育相談など幼・少・中全 13 の家庭教育学級を開いている。

学校教育課では市民一人ひとりのマナーやモラルを自己申告してもらい、行動規範としてもらうことを目的にマナーモデル運動を展開している。9月17日現在で市民 3,398 人が参加している。

このように良識ある市民参加を得て、今後も市民力の醸成に努めていきたい。

大山

Q：今日の静岡新聞朝刊に静岡市の 13 歳の子どもが大人社会を痛烈に批判した投稿が寄せられていた。「金の魔力を知った大人を信用しません」との題名、うなぎや牛肉など食品の産地偽装や汚染米の問題などに始まり大分県の教員採用での贈収賄事件に触れて最後に「大人は何をやっているんだ」ということばで結んでいる。中学生ともなれば大人の言動は良くわかるのだ。しっかりしなくてはいけないとつくづく感じた。

新野南

Q：工場誘致をするためだけでなく、高齢者や通学学童が安心できる交通安全のためにも道路を整備してほしい。そのために、現状の交通量や、通学道路の安全防犯のための夜間街灯の調査をしてほしい。また、公民館までの 300 メートルの道路に 1 つも街灯がない。非常時の集合場所への案内が不安なため、設置してほしい。

A：長谷線で通学路の歩道整備を進めている。頭山線も完成後は交通量の増加が予想されるため、朝比奈・新野の歩道を計画している。予算の範囲内で順次整備したい。街路灯も必要な箇所に設置していきたい。

## 新野南

Q：新野の市営住宅で子育て年代の若い方が新野地区に定住したいという希望を聞くが、受け皿となる宅地がない。何区画かでも紹介できれば、地域活性化の一助となる。市の住宅状況と新野地区の宅地化が可能か。

A：新野の市営住宅は満員状態。御前崎市全体では新しい住宅への入居希望が多い。一方御前崎にある古い住宅は入居者が少ない。比木、御前崎、池新田の雇用促進住宅は、国からの退去命令がでている。

市の住宅を新たに作るかはもう少し様子を見る予定。御前崎に定住してもらえる方には固定資産税の減免など新しい方策を作り、定住化を図りたい。農地の宅地化は農地法の制限で難しい。これをクリアするために、市長会などでも働きかけていきたい。

H18年度からH19年度にかけ、国土利用計画の策定と併せて、都市計画マスタープラン地域別まちづくり構想をまとめた。分家したくても、新野地区の整備方針で住宅地エリアを示した。すぐに宅地化できるわけでないが、国土利用計画の中で大きく示してあるため、そのエリアが出発点となるだろう。

## 新野東

Q：新野、朝比奈、比木地区は建築確認がされていない家が多い。耐震力計算などを重視しないと建物が地震で倒壊する恐れが高い。それを確認するための取り組み、「TOUKAI-0」を県で行っているが、市の建築担当課が消極的である。一昨年、建築組合、商工会が公民館で説明会を行ったが、協力が得られなかった。東海地震＝御前崎沖地震といえるだろう。県とは別に御前崎市で特別に補助を考えるべきではないか。

## 新野南

Q：建築確認を受ければ、その時点での建築基準法に適合しているか確かめることができる。しかし、都市計画区域外では確認申請が不要であるため、昭和56年以降に建てられたものでも、安全とは言えない。行政も昭和56年で区切らず、その事を住民に伝えてもらいたい。

A：建築組合からの申し出に気持ちよく協力しているつもりだが、説明会の件では職員が協力的でなかったことをお詫びする。

「TOUKAI-0」については、耐震補強など県と足並みを揃えて進めている。広報紙やケーブルテレビで広報しているが、耐震補強を行う人は少ない。自分の身は自分で守るために耐震診断、補強を行ってもらいたい。できれば、建築組合からもPRをしてもらいたい。

Q：基礎の耐震補強でも 50～100 万かかる。補助金では足りない上に、補助を受けるまでの手続きが煩雑なため、説明会に来るだけで終わってしまう人が多い。県や他市町村と同じではなく、御前崎市独自で特別な予算が組めないか。

A：現在御前崎市だけの特別な予算の計画はしていないが、今後どうしていくのかは研究課題である。古い家に住んでいる弱者の方には、今後地区の役員さんを通じて相談していきたい。また、耐震相談をしていない家の情報なども、建築組合さんの力も借りていきたい。

Q：広報で昭和 56 年以降の建物でも注意が必要なことを伝えてもらいたい。先行投資という形で、耐震補強を行ったり保険に加入したりすれば、一定期間固定資産税を減免するなどの形をとり、事前に市内の災害を防いではどうか。また、保険に入ることを市で奨励してみてはどうか。災害発生後の復旧費用よりも安くすむはずだ。

A：PR 不足なところもあるため、今後もしっかりと広報していきたい。ご意見については、部長会で検討をしたい。

#### 広沢区

Q：環境基本計画作成について市として ISO 14000 などは取得しているのか？

A：昨年度環境基本条例を策定した。2 ヶ年かけて環境基本計画を策定しようと取り組んでいる。市として ISO など取得する予定はない。

市のゴミの分別の状況は D ランクで、このままだと保全センターでゴミを引き取ってくれないという状態だった。ペットボトルの分別などでしだいに良くなってきたが、現状では ISO という段階ではない。さらに行政で指導していきたい。地区の役員さんとも協力し改善されれば ISO の取得も考えていきたい。

#### 広沢区

Q：ブラジル人のゴミの分別が非常に悪い。分かりやすいパンフレットを再度配布してほしい。読みやすい字で絵を使ったりしてゴミステーションに貼り出せるようなものにしてほしい。

A：市内の各戸に家庭ゴミカレンダーを配布し、その中に英語、ポルトガル語、中国語 3 ヶ国語を載せている。行政ガイドブック（ポルトガル語）にもゴミ出しのルールを記載している。保全センターのものに関しては牧之原市と 2 市で協力して作成した。行政としてもさらに考えていく。案があればご提案いただきたい。

#### 西側区

Q：御前崎には上から下に移動する手段が港坂しかない。市道長山線を拡幅するという話があったが実現されていない。現状計画はどうか。

A：地権者の了解を経てやらなくてはいけない道路だと感じている。前向きに検討する。

#### 西側区

Q：市道長山線のガードレールが腐食していて危険。拡幅工事が先になるのであれば町内会でガードレールの取替え工事を要望したい。

A：御前崎プラスチック（株）から県道佐倉御前崎港線までの区間を合併後に調査、設計まで行った。しかし高低差が大きく、道路構造令に合致しないため国庫補助事業で採択できない。平成 21 年度から市の単独事業で現況の道路を拡幅する計画で 22 年度以降から工事着工を考えている。ガードレールの腐食、水路の損傷などと合わせて拡幅改良していきたい。

#### 下岬区

Q：御前崎市が県下で 1 位になっているものなどを広報誌で挙げてみてはどうか。県で 1 位、全国で 1 位など数字で表したりすれば市の広告になる。御前崎市が県でも全国でも 1 番といったものを市民に伝えてほしい。御前崎市の良さを市民が再認識できる。

A：今後資料を集め広報誌で情報を伝えていきたい。

Q：市に事故米混入の一報から市長に報告するまで 2 時間かかっているがなぜか？

A：どのような製品で、どういったものが混入されていたのかという事実と過去の書類を紐解いたと同時に保護者やマスコミに正確な事実を伝えるために過去 2 年間の資料を全て確認したため 2 時間かかった。

#### 白羽区

Q：浜岡地区と御前崎地区では公共施設の格差がある。今後どうしていこうと考えているか。

A：浜岡地区と御前崎地区の施設面の格差はある。限られた財源の中で御前崎地区を全て優先することは難しい。御前崎地区には合併後全戸にケーブルテレビを設置した。現

在、学校施設の改修工事も積極的に行っている。これから下水道も整備していく予定。さらに、市道256号線（通称：たまねぎ道路）を拡幅し歩道付きの幹線道路にしようと考えている。近い将来、御前崎と浜岡が平等になるように努めていきたい。

#### 白羽区

Q：公民館や地区センターの整備が遅れているので考えてほしい

A：新しくできた女岩コミュニティ防災センターは御前崎の方全員が使える施設として作った。浜岡地区の町内会にある小さな公民館は、市のわずかな補助をするだけで各地区の負担で建てられたもの。今の時代で各戸に経済的負担を強いることは難しい。各地区の避難施設という観点から耐震性の悪い公民館をどう整備していくか検討している。

#### 新神子区

Q：平成19年度に150号線に水道管を敷設してもらったが、夏の暑さで水道水が熱かった。対応策はないか。

A：既に埋設された管から温かい水がでるのはおかしい。調査し報告する水道課で設計者などと調査したが原因不明だった。考えられることは、給水件数が少なく水の流れが悪いためと考えられる。

#### 中町

Q：10月からレジ袋が有料となったが市の公用車をエコカーにしていくことは考えているか。また、市役所の冷暖房設備を各課、各階で調整できるようにすれば省エネにつながるのではないか。

A：目的によって買い替え時期が来たらハイブリットカーや軽自動車に対応できるものは換えていきたい。市役所の空調設備も現状は温度設定が困難で、各フロアごとの起動をなっているが、かなり故障も多い。今後の検討課題としたい。

#### 中町

Q：御前崎市も牧之原市のホームページなどのようにバナー広告を入れることは考えているか。

A：今のところ考えていないが、要望があれば実施できるだろう。

上朝比奈

Q： 薬を常用している高齢者が被災したとき服用している薬の情報があれば近所などでも役に立つと思うがどうか。

病院に救急車で搬送されるときに救急隊が病院に連絡して「カルテがあるかどうか分からない」といわれた。カルテがないと初診のようになってしまって手間がかかるのか。またカルテの保存年限は？

メタボリックでウエストサイズが注目されているがやせている人でも予備軍がいると思うが見解はどうか。

A： 高齢の人は「薬手帳」を持っている。しかもかなり高確率でもっている。若い人ほどもっていない。嫌がる。万一困れば請求してほしい。災害弱者には、災害時避難支援計画をつくった。その中に個別計画があって要介護度3以上、療育手帳 A 障害者手帳 1.2 級の人には個人情報をも民生委員・自主防災会・消防関係者などに封印して渡してある。

市民のカルテは必ずある。ただ2年3年履いてない人は、探すのに時間がかかる。カルテがあれば、一から聞く必要がなくなるし過去の病状など情報が豊富なため対応が早い。当然なくても来ていただければかまわない。カルテは人海戦術で探すため事前に名前を言っていただければ早く探すこともできる。

女性は皮下脂肪がつきやすいが、内臓脂肪はつきにくい。内臓脂肪がつきやすいのは男性だ。メタボリック、特定健診のターゲットは中高年の男性だ。本来、メタボリックよりもタバコを吸うとか糖尿病があるとか高血圧などが怖い。メタボリックの症状がやがて高血圧やコレステロールなどと結びついて心筋梗塞の原因になりやすいということ。もともとの危険因子を持っている人はメタボと関係なく存在する。

高松

Q： 娘が自閉症という障害を持っている。小学生頃からいじめられてきた。中学になって教科ごとに教師も変わる。見えないところでいじめがある。障害者のことを知ってもらいたいというのが願い。健常者との隔たりを無くしていくよう、障害の理解を推進してほしい。

A： 障害を一般健常者が正しく理解し、偏見や差別などの2次的障害につながらないように認識を深めることが大切だ。学習障害（LD）や注意欠陥・多動性障害（ADHD）などの発達性障害が文部科学省の発表では各クラスに6.3%程度いるといわれている。市内でも同程度、各クラスに2～3人はいると認識している。現在市では3年間で発達障害の知識と技能を身につけて正しく理解しようと直接関わる教員や市職員ら全員が2日間の研修を行っている。今年で2年目。エジソンや織田信長なども発達障害を

持っていたといわれている。個性は育ててやればすばらしく伸びる可能性を秘めている。発達障害を個性と捉えて「個性伸張支援教育」として真摯に向き合っていく。

#### 佐倉 3 区

Q：他の市町よりも教育への財政的な支援に力を入れているように感じ、うれしく思う。すぐに効果が出ることではないが、継続的に厚い支援をしてほしい。

小学校区単位という大きい単位でタウンミーティングを行うからには、人が集まる工夫をしてほしい。回覧だけではなく PR の方法を考えてほしい。人が多く集まれば、もっと有意義なものになる。

#### 比木

Q： サポート隊として小学校の門の前に立ってみて、子どもたちの元気がないことに驚いた。教員の中にもあいさつせずに行ってしまう人がいる。

寝たきりや重病の方が 20 日くらいでたいらまわしにされ、転院先を見つけるのに苦勞するという話を聞く。儲けがないからたらいまわしでは情けない。今後の対応を検討してほしい。

A： あいさつは人と人の心の結束であり、教育委員会でも力を入れている。東小学校だけでなく、市全体の問題として、来月の校長会で真摯に検討していきたい。教員にも厳しく指導していく。御前崎市全体に元気な子どものあいさつが響くようにしていきたい。

個々の状況を確認してみないとわからないが、御前崎市立病院は基本的に長く居ることができる病院だと思う。

急性期医療は国の政策。全体の平均で 21 日以上患者が居ると看護基準を下げると脅されてしまうため、どの急性期病院も全体の平均を 21 日以内にしようとする。そのため、御前崎病院では自宅へ帰れる人は老人保健施設でのショートステイや、訪問看護ステーションを利用してもらうなどで支えようとしている。介護型の療養病床も利用してもらえばいいが、看護師不足のため 54 床の 9 割しか埋めることができない。患者の状態、お宅の状況により違ってくる。難しい問題。慢性期までみることができれば一番良いが、急性期の病院では難しい。しかし、御前崎病院は他から比べると地域でお年寄りをみることができる状況にある。

#### 佐倉 1 区

Q： 池高の北、朝比奈へ行く道や比木へ入る道、市役所へ行く道など道路がわかりにくい。案内標識を充実してほしい。

観光面ではクエ、焼酎など新しい商品に期待する。今後も発展させてほしい。焼酎は、

遊休農地利活用の面からもっと考える必要があり、量的にも増やしていかないといけない。今後、地元でも醸造していってもらえればいい。焼酎以外でのさつまいもの遊休農地利活用を色々と考えていってもらいたい。

市の木を産物として利用できないか。九州ではヤマモモワインがあるという。被砂防止林として松だけでなくヤマモモを使用しながら活用してはどうか。椿の油を土産物としてしているところもある。地元で作れるものを産物にしていけば、地元の農業や商業が潤うだろう。観光客は特徴がなければ物足りなくなってしまう。楽しめる・遊べる観光が必要。色々なアイデアを出して、試してみた上で結論をだしてほしい。

A： 道についてはわかりにくい。県道であるため、県へ働きかけをしていくとともに、市としてできる範囲のことをしていきたい。観光客がカーナビゲーションに頼ることなく、スムーズに事故なく走ることができる道路にしていきたい。

遊休農地の活用は第一歩を踏み出したと。芋に関しては、現在中遠調理師学校の松井先生にご協力いただき、芋のてんぷらなど様々なものを作ってもらっている。これが起爆剤となり、特産品開発につながることを期待している。

ヤマモモのワインはユニークなので、声をかけていきたい。椿の油は灯台を守る会の方が作っている。今後、大きく広げていけるよう市として援助していきたい。

農地を活かした観光は、砂地試験場の払い下げの話がでており、議会とも話を詰めて購入したいと思っている。体験型農業と絡めて、市の農業観光の拠点として活用できればと考えている。まとめ次第、皆さまをお願いをしていきたい。

意見：長野に行ったら、現地の特産品を活かしているところが多くあって参考になった。

御前崎でもいい芽がでればと思っている。

上比木

Q：佐倉公民館多目的ホールが立派にできた。比木の公民館も老朽化が進んでおり、30年くらいたっていると思う。建て直しを検討しているか。

A：佐倉地区の方には応分負担をしてもらった。議会でも、市の施設を地元が負担をするのはおかしいという話があった。しかし、1つのエリアで大きなものを運営するには、ある程度分けられた金額でもあったため、議会でも納得していただいた。

比木の公民館も市全体からみれば建て直しの時期にきているのかも知れない。耐震性や経年劣化の時期がきたら、市全体で順序を定め、中期、長期的な計画の中で実施したい。現段階では比木公民館を建て替えるとは言えない。